



令和元年 10 月 1 日



日本フィンランド外交樹立 100 周年記念事業フィンランド映画上映会

長編ドキュメンタリー映画『東方の記憶 (Eastern Memories)』


『東方の記憶 (Eastern Memories)』は、言語学者にして最初の駐日外交代表 G・J・ラムステッド氏の回顧録をたどって、モンゴルと日本の過去と現在を映し出すドキュメンタリー映画です。彼の生きた 19 世紀後半の世界と今日の世界という二つの現実を行き来し、過ぎ去りしものを通して現代を見つめます。

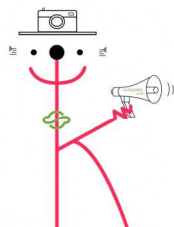
2018 年 1 月に最初に上映されてから、世界各地の国際映画祭で上映され、複数の賞を受賞しています。このたび、日本とフィンランドの外交樹立 100 周年を祝うイベントのひとつとして、香川大学を含めて全国 7 つの大学で上映会が開かれることとなりました。

上映会には、共同で監督を務めたニクラス・クルストロム氏とマルッティ・カールティネン氏が出席し、映画についてのトークセッションを行います。

G. J. ラムステッド氏 グスタフ・ヨーン・ラムステッド氏は、最初のフィンランド駐日外交代表として 1919 年に来日し、今日の日本とフィンランドの友好関係の礎を築いた。言語学者であったラムステッド氏は高い日本語力を持ち、日本の皇室と近しくすると同時に、庶民的な人柄で多くの日本人と友情をはぐくんだ。

記

1. 日 時／令和元年 10 月 28 日 (月) 16:30～18:30
2. 会 場／香川大学 415 教室 (幸町北キャンパス)
3. 入 場 料／無料 ※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
4. 主 催／香川大学 インターナショナルオフィス
5. 企画協力／フィンランド大使館 フィンランドセンター他
6. そ の 他／日本語字幕付き
映画予告版 <https://vimeo.com/361810119>
 <https://www.facebook.com/events/544729979462294/>



➤ 問い合わせ先
香川大学 国際グループ 篠原
TEL : 087-832-1178
FAX : 087-832-1192
E-mail : kokusait@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

東方の記憶

2019年 レクチャー付き上映ツアーのご案内

HILLSTREAM
PICTURES


Finnish Institute in Japan
フィンランドセンター


Svenska
kulturfonden

THE SCANDINAVIA-JAPAN
SASAKAWA FOUNDATION

概要

日本とフィンランドの外交100周年を祝うイベントのひとつとして世界各地で高い評価を受け複数の賞を受賞した長編ドキュメンタリー映画「**東方の記憶**」を共同監督を務めた**ニクラス・クルストルム**監督と**マルティ・カルティネン**監督自らがご案内いたします。

フィンランドセンターでは全国の大学を対象に、この映画の上映と上映後の簡単なレクチャーやディスカッションを行うツアーを計画しており、上映を希望する大学を募集しています。レクチャーのテーマは映画の主題でもある、比較言語学者で初代駐日公使であった故**グスタフ・ラムステッド**です。

ニクラス・クルストルム監督とマルティ・カルティネン監督は、**フィンランド大使館**、**フィンランドセンター**、**フィンランド日本協会の協力**により、二週間に渡って来日し日本各地の大学を回る予定です。またツアーの一貫として、フィンランドセンター所長である**Dr.アンナ=マリア・ウィルヤネン**がラムステッド氏の素晴らしい社会的ネットワークとそれが日本とフィンランドの友好関係にどのような影響をもたらしたかについて短いプレゼンテーションを行います。上映ツアーは**2019年10月**を予定しております。

映画について

「**東方の記憶**」とフィンランドの言語学者G・J・ラムステッドの思考の旅、19世紀後半の世界の思想や伝統をめぐる旅に焦点をあてたものです、ラムステッドが旅した世界は現在は進歩と実用主義に置き換えられてしまいました。映画はモンゴルから日本を過去、現在にわたって旅をします。そして、二つの平行的な現実、過ぎ去りし世界と今日という時代のはかなさを映し出します。過去の伝統、自然、都市は形を変えてゆき、そこに生まれた孤独と義務感の葛藤、ラムステッドは過去の証人であり、また私たちが現在を覗くための鏡でもあります。

「**東方の記憶**」は、2018年1月に最初に上映されてから世界各地の国際映画祭で上映されてきました。コペンハーゲン、ニューヨーク、シアトル、ミュンヘン、ケンブリッジ、ワルシャワ、クラコフ、カルタヘナ、サンパウロ、カトマンズなどでこれまで上映され、複数の賞を受賞しました。今後も世界各地で上映予定であると共に、フィンランドの国営公共放送**VUE**でも放映されました。またこの映画はモンゴルでも公開されました。

映画音楽はエレクトロニックミュージシャンのラスムス・ヘドゥランドが担当、彼はエレクトロニックアンビエントの作品を作るために、野外の音を素材として生かすにフィールド録音を行うことで知られています。映画のサウンドトラックはビニール盤レコードとeミュージックでリリースされています。

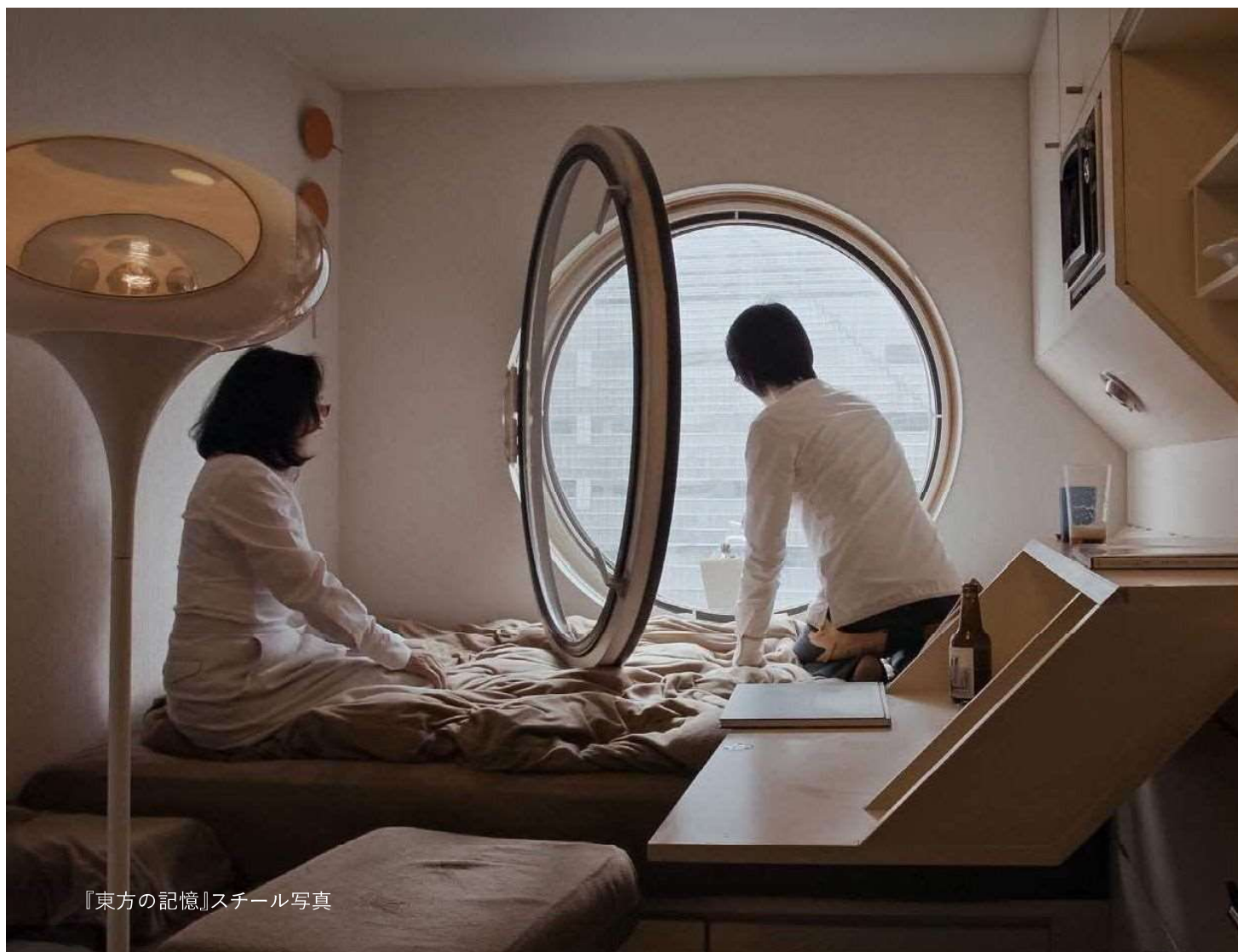


G・J・ラムステッド

映画「**東方の記憶**」の主人公でもあるグスタフ・ヨーン・ラムステッドは、最初のフィンランドの駐日外交代表として**1919**年来日しました。今日の日本とフィンランドの友好関係の礎を作ったのは彼であり、彼の高い日本語能力と人柄に拠るところが大きかったのです。ラムステッドは日本の皇室の方々ともとても懇意にしていました。と同時に、彼はとても庶民的で、相手の地位や経済的背景など関係なく、友情関係を築きました。そして言語と文化に対する飽くなき探究心を持っていました。こうした彼のストーリーは現代という舞台設定の中で作品の中で語られます。

ラムステッドは共産圏になる前のモンゴルを訪れ、そこにつたわる詩や物語、寓話や歌を集め、モンゴルの文化に対する考察を書き残しました。彼の研究は現代においても、モンゴル語を学ぼうとする人の基礎となり、彼がモンゴル語教育に果たした貢献の大きさは計り知れません。

「**東方の記憶**」はラムステッドの回顧録に基に、モンゴルと日本の過去と現在を往来します。映画のなかで、100年前の言葉をかたるラムステッドの声と現代と連動することで、時間という概念をより浮き彫りにし、現代という環境の中で過去を経験するという特異の体験を観るものに与えます。映画を通じ観客は過ぎ去った時代を生きた先人たちとつながり、そして同時に現代の私たちがいかに自然から切り離され、そのことによってどれだけの知恵が失われたかを知ることになります。



『東方の記憶』スチール写真